

市長提案説明要旨

令和5年6月13日

本日ここに令和5年第2回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案などのご説明を申し上げます。

《はじめに》

＜鹿島アントラーズ新スタジアムプロジェクト＞

鹿島アントラーズは、クラブ創設30周年を迎えた2021年（令和3年）10月1日に、新スタジアムプロジェクトに関する計画を発表し、2026年（令和8年）までを目途にプロジェクトの方針発表を行うとしておりました。

この発表を踏まえ、去る5月30日に鹿島アントラーズから新スタジアムプロジェクトの進捗状況について、「新スタジアムは鹿嶋市内での建設検討を進める」、「広域課題である渋滞問題など、課題解決に向けて検証を進めていく」という2点について報告がありました。

私たちはこれまで一貫して、新スタジアムについても、市内に建設していただきたいという強い思いで協議を重ねてまいりましたので、大変喜ばしい報告となりました。

今後、正式な建設候補地の決定に向けた検討が進んでいくものと考えておりますが、市といたしましては、新スタジアム及びその周辺エリアを、本市のみならず鹿行地域を活性化させる新たな賑わいを創出する拠点エリアとして位置づけ、新スタジアム周辺エリア整備構想について協議を重ね、市民やサポーターに愛されるまちづくりが進むよう鹿島アントラーズをはじめ、県・他のホームタウン4市と連携しながら、全力で取り組んでまいります。

＜第94回都市対抗野球大会＞

日本製鉄鹿島硬式野球部（カシマブルーウィングス）が、6月5日に行われた「第94回都市対抗野球北関東大会代表決定戦」で劇的な勝利を収め、北関東第1代表として、7月14日から東京ドームで開催される本大会に2年連続22回目の出場を果たしました。誠にありがとうございます。本市の代表として、全国にその名を馳せ、悲願の黒獅子旗を獲得できるよう市民を挙げて応援してまいります。

なお、日本製鉄鹿島硬式野球部においては、4月に開催された第45回日立市長杯選抜野球大会において優勝を飾り、11月に京セラドーム大阪で行われる「第4

8回社会人野球日本選手権」への出場も決めております。両大会で素晴らしい成績を残されることを期待しております。私も可能な限り、応援に駆け付けたいと思います。

<行政組織の改編>

本年4月に行政組織の改編を行い、「DX・行革推進室」と「ふるさと納税戦略室」を創設しました。

今後、少子高齢化により生産年齢人口の減少が見込まれる中、行政運営におけるリソース不足が懸念されております。DX・行革推進室につきましては、市民の利便性の向上と行政の効率化を目指し、行政手続きのオンライン化をはじめ、情報通信技術の利活用等による業務改革を行うとともに、私の施策である「Next鹿嶋5本の柱」の主要目標の一つに位置付けている行財政改革を推進してまいります。

まず、日々の業務や事業の進め方につきましては、論理的にも矛盾と飛躍がなく、適切に進めなければならないことから、そのツールとしてロジックモデルの活用を図っています。先日も、庁内各部における主要事業について、ロジックモデルのフレームワークにより調整しており、今後も、職員一人ひとりが合理的な思考プロセスにより、効果的に業務が進められるよう、より一層の浸透を図ってまいりたいと考えております。

そして、事業の整理整頓（断捨離）につきましても継続して取り組んでまいります。昨年度から事業・業務の洗い出しを実施し、数値による「見える化」を進めております。これら既存事業の整理につきましても、令和5年度予算に一部反映しておりますが、将来を見据えて、公共施設の維持管理や老朽化対策など、避けては通れない整理すべき事案に関しましても、エビデンスに基づき「やめる・減らす・変える」を進めてまいります。

また、本市のデジタル化推進による業務改革の取り組みの一つとして、対話型AIであるChatGPT等の実証実験を開始いたしました。

この取り組みは、ChatGPTや最新のAI技術の組み合わせを活用し、庁内における業務改善の効果測定や、対話型AI利用時の留意点などを検証しながら整理し、市民サービスの向上、行政手続の効率化、DX人材育成の強化を目指すものであります。実証実験につきましては、各部局からの推薦者で組織するワーキングチームを立ち上げ、将来の利活用も視野に入れた効果測定を行うとともに研修等を実施し、安全性の確保など適切な運用方法を整理しながら、デジタルを活用した行財政改革を推進してまいります。

次に、ふるさと納税戦略室についてであります。

ふるさと納税戦略室につきましては、今後の厳しい財政状況を見据え、短期的な対応としてふるさと納税での寄附額増を目指すとともに、地域資源を活用した返礼

品を開発・発掘し、市外へPRすることで地域経済の活性化にもつなげるため、専門部署として設置しました。

ふるさと納税を強力に推し進めるためには、質・量ともに競争力のある返礼品を増やしていくことをはじめ、寄附者へのスピード感ある対応、トレンドを把握した効果的なPRなど、総合的に取り組んでいくことが必要であることから、メインの委託業者を県内他自治体で実績をあげている事業者に変更し、体制を刷新しました。また、ふるさと納税は、行政のみならず、返礼品を取り扱う事業者の皆様の協力が必要不可欠になりますので、5月に事業者の皆様を対象に説明会を開催し、私自身がふるさと納税にかける思いをお話しさせていただき、更なる協力をお願いしたところであります。

さらに、一部のメディアで報じられましたが、若き応援団として、鹿島中学校1年生が「ふるさと納税返礼品考案プロジェクト」に取り組んでいます。これは、総合的な学習の時間において、「ふるさと鹿嶋」の強み、資源、課題を深く学び、鹿嶋市の魅力発信につながるふるさと納税の返礼品を考案するものです。来年2月の最終報告会で、市や事業者に対して、様々なアイデアの返礼品が提案されることを楽しみにしており、実際に商品化できるものについては、事業者と連携し、返礼品としての実現に向けて取り組んでまいります。

その他、現時点で、寄附受領から事業者への返礼品発注までの期間短縮、新規返礼品開拓に向けた事業者個別訪問、ポータルサイトの追加などを進めているところです。

今後も様々な取り組みを継続して展開し、令和8年度におけるふるさと納税寄附額10億円を目指してまいります。

《事業の概要等》

続きまして、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要について、ご説明申し上げます。

(多様性を理解し共に生きる／暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋)

○セイビ堂ドリームパーク（鹿嶋市地域子育て支援センター）

鹿嶋市地域子育て支援センターが宮中地区に新築移転し、本市で初となるネーミングライツ制度の導入により、愛称「セイビ堂ドリームパーク」として、4月13日にオープンしました。連日多くの親子連れの皆様にご利用いただいております。中心市街地の賑わいづくりにもつながっております。

引き続き、子育て中の親子が気軽に立ち寄り、交流できる地域の子育て支援拠点として、多くの笑顔があふれ、その名のおおりに、子どもたちに夢を与え、愛され続ける施設となるように運営してまいります。

○長寿をたたえる事業

長寿をたたえる事業につきましては、これまで一定年齢以上の方を対象に実施してまいりましたが、昨年度、これまで対象となっていた方を対象としたアンケートなどにより、事業のあり方を改めて検討してまいりました。

令和5年度からは、敬老のお祝いである「長寿をたたえる事業」祝券の贈呈を、77歳、80歳、85歳、88歳、90歳、95歳、99歳以上といった節目年齢の方を対象とすることに改めさせていただき、今後は要望が多かった地域医療や一人暮らし高齢者への対応等の更なる充実を図ることといたしますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。なお、周知につきましては、広報かしまやホームページなど広く市民の皆様にご案内するとともに、今年度77歳以上の方にも個別通知するなど、丁寧な対応に努めてまいります。

○公民館活動

公民館活動につきましては、これまで新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントが中止や規模を縮小しての開催となっていましたが、感染症の位置づけが5類となったことから、各地区まちづくり委員会でも対面での総会を再開し、新年度に計画された各種事業をコロナ禍前のようにスタートしております。

しばらくの間は感染症対策の意識を持って参加していただくように呼び掛けてまいります。市内各公民館において、地域の皆様が共に活動し、人と人とのつながりを感じられる活動が再開できることを嬉しく思っております。

今年度は、令和3年度に各地区で策定されたコミュニティプランの見直しを行い、地域の魅力や様々な課題を掘り起こし、地域の皆様や各種団体の皆様と連携して、より良い地域づくりにつなげてまいります。

(共に学び成長しながら生きる／元気で賢い鹿嶋っ子育成)

○高松小学校・高松中学校の施設一体型小中一貫教育

本年4月より、高松小学校・高松中学校の児童生徒たちは、大規模改修によりリニューアルされた高松中学校の校舎で施設一体型小中一貫教育をスタートさせました。

校舎や体育館は一新され、中庭は芝生広場とし小学生の遊具を配置しました。また、学校の入口には、新たなシンボルとして大階段を設けました。

さらに、校舎の1階に配置した学校図書館につきましては、5月25日から、高松地区在住の方々などを対象に、毎週木曜日に地域開放を行っております。多くの地域の皆様にご利用いただき、読書を通じて児童生徒たちと地域住民との相互交流を広げ、地域社会全体での教育力向上につなげてまいりたいと思います。

○かしま子ども大学事業

子どもたちの知的好奇心や探求心を育むことを目的に、市内小学5・6年生を対象として、普段の学校生活では触れることの難しい体験活動や専門的な知識を得る場を提供する「かしま子ども大学」を今年度も開催いたします。今年度は、7月から11月に、全8講座を設定し、宇宙や国際協力、司法、AIなど、様々な分野にわたる講座を用意しております。

また、新たな試みとして、小学3・4年生を対象とした「かしま子どもプレ大学」を試験的に2講座実施し、より多くの子どもたちへ学びの場を広げる取り組みを進めてまいります。

いずれの事業においても、積極的に親子参加を呼びかけ、子どもたち自身の夢だけでなく、保護者の皆様にもお子さんの夢と一緒に考えるきっかけにさせていただきたいと考えております。

(スポーツに親しみ健康に生きる／暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋)

○みんなのスポーツフェスタ in KASHIMA

昨年度に引き続き、「スポーツと健康」をテーマとした「みんなのスポーツフェスタ in KASHIMA」を毎月第4土曜日に、市内外の企業やスポーツ団体の皆様と連携して実施しております。このイベントを通じて、ウォーキングやスポーツを始めるきっかけとしていただき、多くの市民の皆様にスポーツを継続する楽しみ、喜びを知っていただきたいと思っております。

今後も、市民の皆様がそれぞれのライフステージと価値観に合わせて、スポーツを楽しみ、健康寿命を伸ばし、彩り豊かな生活を送ることができるよう、スポーツ活動の推進はもとより、スポーツによる交流の推進、スポーツ環境の充実を図ってまいります。

○新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症が、先月8日に季節性インフルエンザ同等の5類に分類されました。これを受け、新型コロナウイルス感染症への感染状況の把握方法の変更、受診可能な医療機関の拡大、医療費の自己負担の発生、濃厚接触者の行動制限など、取り扱いが大きく変わりました。しかしながら、ウイルス自体がなくなったわけではなく、他の多くの感染症同様に、高齢者や基礎疾患を持っている方には注意が必要な感染症であることに変わりはありません。市といたしましては、引き続き、国や県の感染情報に注視し、通常の手洗いや換気等の基本的な感染症対策に加えて、流行時には「三密の回避」等の周知を行ってまいります。

また、新型コロナウイルスワクチンの接種につきましては、現在、「令和5年春開始接種」を実施しております。これまでの経過等から、今後再び感染が拡大する可能性があるとの専門家の指摘もありますので、今回の接種対象となっております65歳以上の方や基礎疾患をお持ちの方におかれましては、重症化を防ぐ観点からも、ワクチン接種をご検討くださいますようお願いいたします。

(環境未来都市・鹿嶋をつくる／次世代も輝く雇用のある鹿嶋)

○鹿嶋市洋上風力発電推進ビジョンの推進

昨年12月に策定しました「鹿嶋市洋上風力発電推進ビジョン」は、洋上風力関連産業の総合支援拠点の形成による地域産業の活性化と新たな雇用の創出、クリーンエネルギーの導入促進により、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献することを目的としております。

その第一歩として、3月17日に鹿嶋市・神栖市の両市主催により、洋上風力

発電セミナーを開催したところ、地元立地企業や事業者、関係団体の皆様など、230名もの参加がありました。改めて、洋上風力という新たな産業への関心の高さや期待の大きさを感じたところであります。

今後も、推進ビジョンに基づき、セミナーやビジネスマッチングなどを開催することで、市民の皆様には洋上風力発電事業に対する理解を深めていただくとともに、地元企業の参入促進に努めてまいります。

また、茨城県におきましては、昨年度、脱炭素化による鹿島港の競争力強化や、次世代エネルギーのサプライチェーンの拠点化を目指す「鹿島港港湾脱炭素化計画」を策定しております。

産業の競争力強化に資する脱炭素化に関する取り組みにおいて、県は港湾管理者として、洋上風力関連産業の企業立地促進のための積極的な誘致活動を行うことが必要であるとしております。本市が掲げる推進ビジョンの実現のためにも、県の取り組みと強力で連携していくことは言うまでもなく、鹿島港の優位性を生かしたトップセールスを積極的に行い、洋上風力産業を含めた新たな産業の創出と既存産業の活力の向上に注力してまいります。

(環境未来都市・鹿嶋をつくる／行ってみたい、暮らしてみたい鹿嶋)

○鹿嶋市海水浴場の開設

本市の代表的な観光資源の一つである夏の海水浴場につきましては、下津・平井海水浴場を7月15日から8月16日までの33日間開設いたします。

NPO法人鹿嶋ライフガードチームによる監視を行い、安全・安心に海水浴を楽しんでいただけるよう努めてまいります。期間中は宝探しゲームやビーチフラッグスなど、各種イベントの開催も予定しておりますので、市民の皆様はもとより、県内外から多くの皆様のご来場をお待ちしております。

○第43回鹿嶋市花火大会

鹿嶋市花火大会については、令和2年、令和3年の2年間、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていましたが、昨年は11月に3年ぶりに開催することができました。

今年は、JRや茨城県、県内市町村、観光事業者などが一丸となって、茨城県の観光を盛り上げるイベント、「茨城デスティネーションキャンペーン」が10月から12月までの3か月間実施されます。キャンペーン期間中は、多くの観光客を呼び込むために県内各所で様々なイベントが行われる予定となっており、鹿嶋市花火大会も、このキャンペーン期間に合わせて、10月14日に開催することで準備を進めています。

水中花火や超特大スターメインなど、今年も見どころいっぱいの花火大会を市民の皆様楽しんでいただくとともに、全国に広くPRしてまいります。

○令和4年全国都道府県別ツーリング目的地検索数表彰

株式会社ナビタイムジャパンが発表した「ナビタイムスポット検索ランキング」のバイク利用者の目的地としてユーザーに検索された「令和4年全国都道府県別ツーリング目的地検索数」において、本市が茨城県内で第1位となり表彰されましたので、ご報告いたします。

これは、令和4年1月からの10か月間で、スマートフォンで利用できるバイク専用ナビゲーションアプリ「ツーリングサポーター」利用者の経路検索において、「鹿島神宮」が茨城県内で最も多かったことから、表彰を受けたものであります。

今後も、より多くの方に本市を訪れていただけるよう、観光資源の磨き上げを行うと同時に、効果的な情報発信に努めてまいります。

(スマート&コンパクトな鹿嶋をつくる／暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋)

○洪水ハザードを考える日

5月14日、21日、27日の3日間、洪水ハザードエリア（洪水浸水想定区域）となる北浦沿岸の28地区すべてを対象として、「洪水ハザードを考える日」事業を実施しました。

この事業は、対象となる地区の区長の皆様にご協力をいただき、6月から10月の本格的な出水期を迎えるにあたり、洪水から身を守るために必要な備えと行動を、ご近所や各家庭で改めて確認していただく防災訓練として行ったものです。

また、豊津地区、高松地区においては、公民館が避難所として開設された際に、避難所を運営する市職員と地区まちづくり委員会の皆様による防災研修会を行い、災害に関する情報の確認方法や公民館の設備・備品等を改めて確認していただきました。

災害に強いまちづくりを進めていくためには、市民の皆様と市職員が連携・連動して防災・減災対策に努めていくことが必要です。今後も、市民の皆様と防災・減災に関する様々な情報と知識を共有していくための学習会や防災訓練などをおして、「地域の絆」を大切にしたい取り組みを推進してまいります。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が1件、条例関係議案が1件、その他の議案2件の合わせて4件であります。

予算関係議案は、令和5年度一般会計の補正予算であります。

一般会計補正予算については、返還金による非課税世帯等臨時特別給付金給付事業や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用したプレミアム付きデジタル商品券事業に係る商工業振興事務経費などの補正であります。

条例関係議案は、「鹿嶋市保育所の設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例」であります。

その他の議案は2件で、「鹿嶋市監査委員の選任について」、及び「市道路線の変更について」であります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案については、総務部長から補足説明をいたします。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。